

いてふ

一般財団法人 防府消化器病センター

防府胃腸病院

防府胃腸病院 広報誌

2018年4月 第12号



新専門医制度と医師の偏在

一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院長 三浦 修

平成 30 年 4 月、新専門医制度が始まりました。2 年間の初期臨床研修を終えた約 8400 人の専攻医が、19 基本領域のそれぞれの研修プログラムの中で 3~4 年の修練を積み、最終的には日本専門医機構が専門医として認定することとなります。「質の高い専門医を養成し、国民に分かりやすい仕組みにすること」をその制度創設の目的として謳っています。新専門医制度構想の過程で、「地域から若い医師が少なくなり、医師の偏在を助長する」あるいは、「地域医療が崩壊する」といった懸念が噴出し、新たに総合診療領域が新設されるなど基本領域の見直しもありました。

新制度では、専攻医が都市部に過度に集中することを防ぐための措置をとってはいますが、全国の 21.7%、1825 人の専攻医が、東京都に基幹施設を置く研修プログラムで採用され、前年度東京都で初期研修を行った人数から 475 人も増加する結果となりました。これでは、東京一極集中と言わざるを得ません。

山口県の発表によると、平成 28 年の山口県内の医師数は 3,436 人で、人口 10 万対の医師数では 246.5 人であり、全国では 20 位ですが、中国地方では最も少ない状況となっています。特に 35 歳未満の医師数では、平成 10 年と比較すると 215 人の減であり、30.3%も減っています。これに対して、東京都や神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県などの大都市ではこの間 14.3%増加しています。山口県内 15 の臨床研修病院での臨床研修医マッチ数は、この数年山口大学を含めて 80 人台後半を維持してきましたが、平成 30 年度から導入される新専門医制度における県内プログラムへの専攻医登録数は 161 人の定員に対してわずか 44 人となっています。若手医師は、山口県からいなくなってしまうのでしょうか。

山口県の中山間地域では、地域住民の過疎化・高齢化と並行して、長年地域の医療を支えてきた医師たちの高齢化も著明であり、後継者不足も重なって、無医地区が急速に増加しています。5 年後、10 年後の地域医療をどのように担保していくのか、喫緊の課題として、行政、医師会、地域の医療機関が連携した早急の具体策が必要です。



トピックス

肝疾患治療あれこれ

消化器外科 日本肝臓学会 肝臓専門医 柿本忠俊

こんにちは。昨年度より当院で勤務しております、外科 12 年目の柿本と申します。もともとは沖縄の浦添総合病院で救急医療に携わっておりましたが、縁あって東京女子医科大学病院の消化器病センターに所属し、関西出身でもあることから、大学から最も遠い派遣先である当院で羽を伸ばしつつ、日々診療させていただいております。大学では肝胆膵外科、特に肝疾患・肝移植グループに所属しておりました。今回肝臓専門医の資格を取得いたしましたので、ご報告とともに当院での肝疾患治療に関して述べてみたいと思います。

すでにご承知のごとく、ここ数年で C 型肝炎の治療は劇的に変わり、インターフェロンフリーの治療でかなりの率でウイルス排除が可能となりました。また予防医療の進歩で B 型肝炎の罹患率も減少傾向を認めております。一方で食事内容の変化や糖尿病の増加に伴う脂肪肝は年々増加しており、特に NASH(非アルコール性脂肪肝炎)は肝硬変や発がんのリスクが高いとされております。自分が大学に所属していた際も、以前に比べウイルス性肝硬変からの肝細胞がんは激減しており、変わって NASH をベースとして肝硬変に至る前に肝細胞がんが発生する症例を多く経験しました。NASH の基本的な治療は食事・運動療法と糖尿病のコントロールが中心となりますが、いざ、がんが発生してしまった場合は我々外科医の出番となります。

肝細胞がんの治療は手術・ラジオ波による焼灼・血管内治療・抗がん剤・肝移植と多岐にわたりますが、当院では移植以外の全治療を外科が行っております。勿論手術が最善の方法ですが、多発例や肝機能低下、ご高齢の患者様の場合、手術自体が負担となることも多いため、ガイドラインの順守は勿論のこと、患者様の状態に合わせて最善の治療を選んでいきます。例えばラジオ波や血管内治療の場合、術後の痛みや合併症も少なく、多くの方は 5~7 日程度の入院期間ですみます。

加えて治療効果も良好、昨年には緩和治療しかないと言われて来院されたご高齢の多発肝細胞がんの患者様が、血管内治療一回で腫瘍のサイズも 1/4 以下となり、腫瘍マーカーも激減し(AFP 12000ng/ml⇒170ng/ml、PIVKA-II 78000mAU/ml⇒130mAU/ml)、1 年たった今も元気に過ごされておられます。こういったケースを経験しますと、本当に来ていただいてよかったな~と実感します。

もう一つ、最近の肝疾患で重要なものとして転移性肝がんがあります。特に近年増加傾向にある大腸がんからの転移性肝がんは、その他の部位に転移を認めなければ、切除することで完治が得られることがあります。ただし多くの場合はその前に化学療法がおこなわれており、化学療法に伴う肝障害(CASH)により肝機能が低下しているケースもあります。そのような場合はできるだけ正常な肝臓を温存させるために過不足の無い切除が重要となってきます。当院では術前に詳細な画像検討を行い、かつ手術中に肝臓超音波のスペシャリストにも参加してもらうことで、できるだけ負担のかからない切除を心がけています。

以上最近の肝疾患の治療に関して簡単に述べさせていただきました。
もしお困りのケースがあれば気軽にご相談いただければ幸いです。

(次回:胆道・膵臓の治療について)



第 119 回健康公開講座「胃がん、大腸がん、肝臓がんの治療とその選び方」

来る5月11日に「胃がん、大腸がん、肝臓がんの治療とその選び方」と題してご講演いただきますのは、広島大学消化器・移植外科学教授の大段秀樹先生です。先生は幅広くご活躍ですが、特に、肝臓移植・移植免疫分野においては非常に高名な研究者であり、ヒトドナー肝由来のNatural Killer細胞が、生体には優しく、しかし強力な抗腫瘍分子の誘導効果があることを一連の研究で突き止められ、副作用を極限まで抑えた肝移植後のがん再発防止手法として日本で初めて報告されました。また、2017年には日本肝移植研究会の会長に就任されています。

今回のご講演では、これらの素晴らしい研究に裏打ちされた臨床における消化器がんの治療選択について、お話を伺うことができます。職員一同楽しみにしております。皆様もふるってご来場くださいませ。



広島大学消化器・移植外科学教授

おおだん ひでき

大段 秀樹 先生

～ 2018年5月11日(金) 19:00開演 アスピラート3階 ～

新任医師紹介

かもうち あまね
鴨打 周 (2018年4月1日入職)

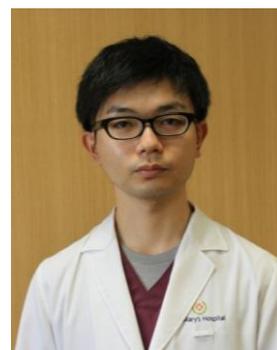
[専門] 一般外科・消化器外科

[主な経歴] 2015年 長崎大学卒業
2015年 福岡県聖マリア病院 初期研修医
2017年 九州大学 小児外科入局
2017年 九州大学病院 小児外科

[当院勤務での抱負]

昨年は九州大学病院小児外科に勤務しておりました。本年度より成人外科症例の経験を積むため、当院で勤務させていただくことになりました。いち早く外科的手技や内視鏡などを習得し、患者さんに寄り添った医療をしていくことができればと思います。何卒よろしくお願い致します。

[趣味] 読書、映画鑑賞



新入職者研修を終えて

当院は、この4月に10名の新入職者を迎え入れました。4月2日の入職式の後、2日間に渡り、病院の沿革、組織、病院安全管理体制など幅広い研修を行いました。当院の理念である「すこやかな地域社会のために消化器疾患の予防・治療・研究に取り組む」ため、新入職者を加え職員一同が協働して、「患者さんの視点に立った安心・安全な医療」を提供していく所存です。新入職員の笑顔と向上心に大きな期待をお寄せください。

教育委員会委員長 中村 章子

外来診療予定表

(2018年4月現在)

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1診	松岡	三浦	三浦	松岡	三浦	交代制
	2診				竹尾		交代制
	3診	竹尾	松岡	竹尾	三浦	松岡	交代制
	5診	柿本	石本	柿本	石本	石本	
	6診	南園	戸田 9:00~	南園	鴨打		
午後		戸田	休診	戸田	休診	戸田	休診

	診療日時	受付時間	診療時間
平日	午前	8:00~11:00	8:30~
	午後(月・水・金)	13:30~16:30	14:00~
土曜日	午前	8:00~11:00	8:30~

- ※ 土曜日の診療に関しましては、交代制となっております。
 土曜日の診療予定は受付前に掲示しております。
 出張等で担当医が不在の場合もございますので、受付またはお電話にてお問い合わせください。
 担当医が不在の場合は代替りの医師にて診療を行います。



一般財団法人 防府消化器病センター

山口県防府市駅南町 14-33
 TEL: 0835-22-3339 (代表)
 H P: <http://www.hofu-icho.or.jp>

■交通機関のご案内

- 【電車】 JR 防府駅よりバス 2分 (防府市役所前下車)
 または JR 防府駅より徒歩 10分
- 【バス】 防府市役所前下車
- 【お車】 山陽自動車道 防府東もしくは防府西インターから 10分

★地域医療連携・相談室から★

地域医療連携・相談室では、地域連携や在宅医療の充実を図り、患者様が住み慣れた場所でその方らしく生活できるようサポートいたします。お気軽にご相談ください。

TEL:(0835)22-3339 (代表) FAX:(0835) 25-8754 (直通) 担当: 岡屋・金子・三宅

編集後記

日本には、新年、節分そして新年度と、1年に3回も心機一転する機会があります。そういう意味でも4月は貴重な月で、今年は桜も豊かに鞠をふくらませ、新年度のスタートを彩りました。あっという間ではありましたが、とても美しく感慨深いひと時でした。全国的に新生活をはじめられた方はたくさんおられると思いますが、当院もフレッシュな顔ぶれがそろい、華やかになりました。職員一同初心に返り、心機一転、思いをひとつにして皆様に向き合わせていきたいと思っております。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。
 事務局長 栗林 左知